

小 春 日 和

こ は る び よ り

2017年 第36号
発 行
愛媛県立中央病院
松山市春日町83番地

TEL:089-947-1111

<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>

愛媛県ドクターヘリ運航開始～

愛媛県ドクターヘリは平成29年2月1日から運航が開始されました。日本全国では平成29年3月現在、41道府県に51機のドクターヘリが配備されており愛媛県は40番目となりました。ドクターヘリは救急医療用の医療機器等を装備し、専門の医師・看護師を救急現場へいち早く運び、早期に治療を開始することにより救命率を向上させることを目的とするシステムです。ドクターヘリは従来の地上救急にくらべて救命率は3割以上向上し、社会復帰のできた人は1.5倍にも達するとも言われています。

(1) 運航形体

愛媛県ドクターヘリ事業は、愛媛県がヘリコプターを所有するのではなく運航委託（ヘリコプター、パイロットの手配等の運航に関するすべての業務を委託する：車に例えると、運転手付きレンタカーをレンタル契約する）という形態をとっています。整備・故障等により出動できない日はなく、365日安全に運航することができます。

(2) 出動方式

愛媛県ドクターヘリの出動については、①松山空港出動方式（月曜、木曜、土曜、日曜）②中央病院出動方式（火曜、水曜、金曜）の2つの方式をとっています。中央病院は市街地に位置し、近隣住民の方々への騒音等の負担軽減のために空港出動方式を採用した経緯があります。松山空港出動方式の場合、夜間ヘリコプターは松山空港に格納されているため、昼間は空港で待機し出動があれば空港から離陸することになります。中央病院出動方式の場合、松山空港から朝8:30分頃に中央病院屋上ヘリポートに移動後、屋上で待機し出動に備え17:15分頃に松山空港に戻ります。いずれの出動方式でも、要請から約5分で離陸します。

(3) 運航スタッフ

運航スタッフは、原則としてパイロット1名、整備士1名、フライトドクター1名、フライトナース1名、それに加えて患者1名の計5名です。医療スタッフは、中央病院（救急科医師、救命ICU・HCU看護師）と愛媛大学医学部（救急部医師、HCU看護師）で構成され曜日により当番が決まっています。火曜・水曜・金曜・日曜を中央病院、月曜・木曜・土曜を愛媛大学医学部が担当しています。

*原則として、ご家族の搭乗は控えていただいております（小児等は、例外）

(4) 運航範囲 → 図1 表1

愛媛県全域をカバーし、愛南町へは約30分で到着します。

図1



表1

松山市中島	10分以内
久万高原町	約10分
今治市	約10分
上島町	約20分
大洲市	約15分
八幡浜市	約15分
伊方町	約20分
四国中央市	約25分
愛南町	約30分

(5) 運航状況 (平成29年7月31日現在) 表2

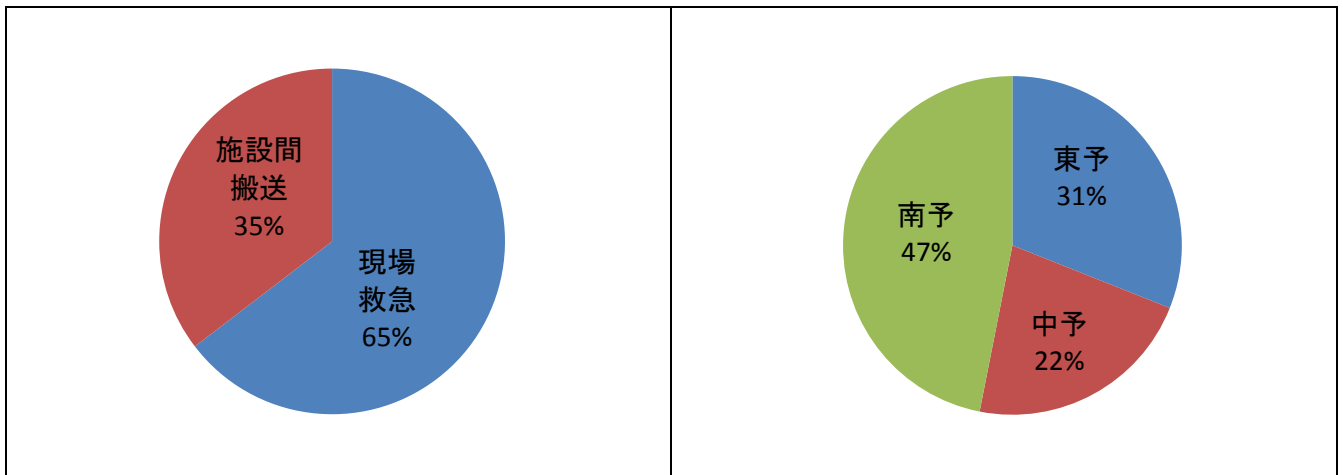
2月の運航開始当初は天候不順もあり出動件数は伸びませんでした。その後は徐々に増加し7月31日現在で、出動119件となっています。概ね1日平均1件のペースで出動しており、約300件/年の出動が見込まれています。

- ア) 出動実績：要請件数 145件
出動119件 → 表2
(未出動26件、出動後キャンセル6件)
- イ) 出動内わけ：現場出動 73件
施設間搬送 40件 → 図2
現場出動が増加する傾向にあります
- ウ) 要請地域 → 図3
南予地域が出動の約半数を占めています

平成29年	要請件数	出動件数	出動件数内訳			
			現場救急	施設間搬送	出動後キャンセル	その他
2月【運航開始】	10	5	3	2		
3月	31	28	15	12	1	
4月	27	23	16	6	1	
5月	31	27	16	9	2	
6月	20	15	8	5	2	
7月	26	21	15	6		
計	145	119	73	40	6	

図2

図3



エ) 未出動件数：要請があったが、結果的に出動しなかった件数 → 表3
要因として天候不良が最も多く、次いで要請前キャンセルとなっています

表3

平成29年	未出動件数	未出動件数内訳				
		待機時間外	天候不良	重複要請	出動前キャンセル	その他
2月【運航開始】	5		3		1	1
3月	3		1	1	1	
4月	4	1	1		2	
5月	4	1	1	1	1	
6月	5	1	3		1	
7月	5	1	3		1	
計	26	4	12	2	7	1



オ) 疾患内わけ → 図4 4-①、4-②

多発外傷が最も多く、次いで大動脈疾患、急性冠症候群、脳卒中となっています。
現場出動では外傷が75%を占め、施設間搬送では内因性疾患が75%を占めました。

図4

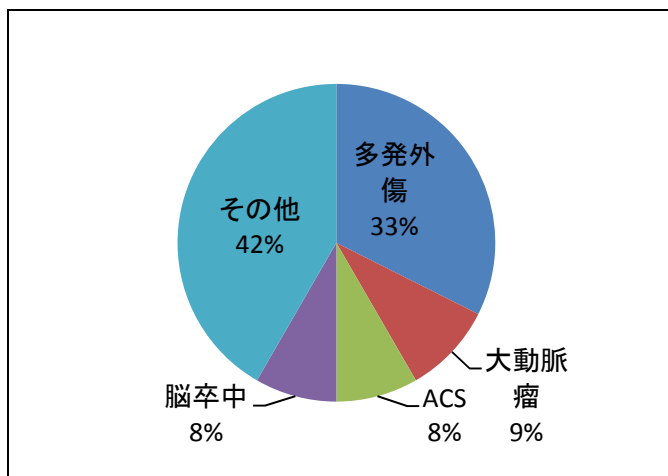
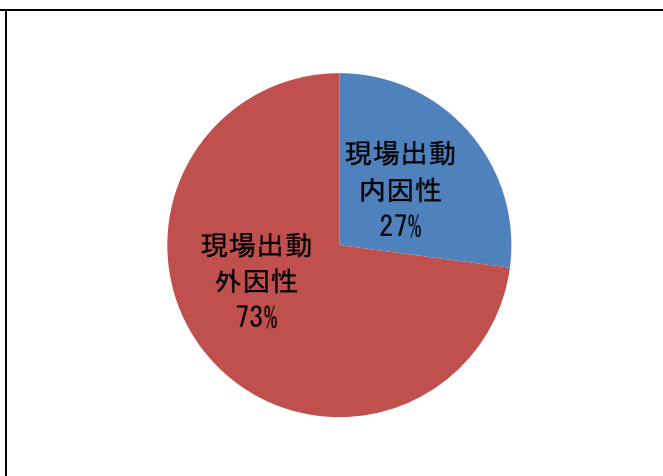
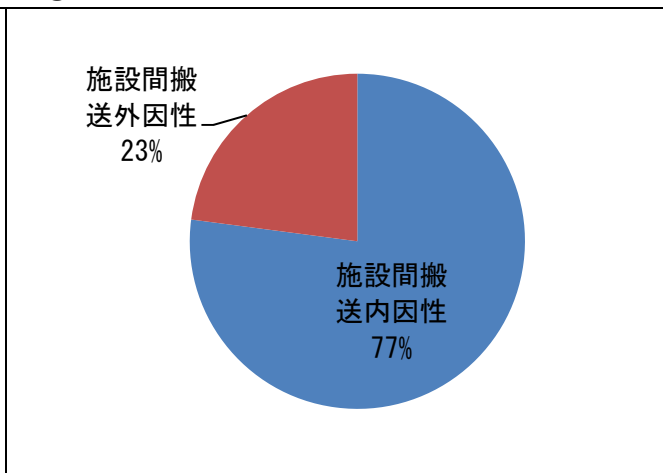


図4-①



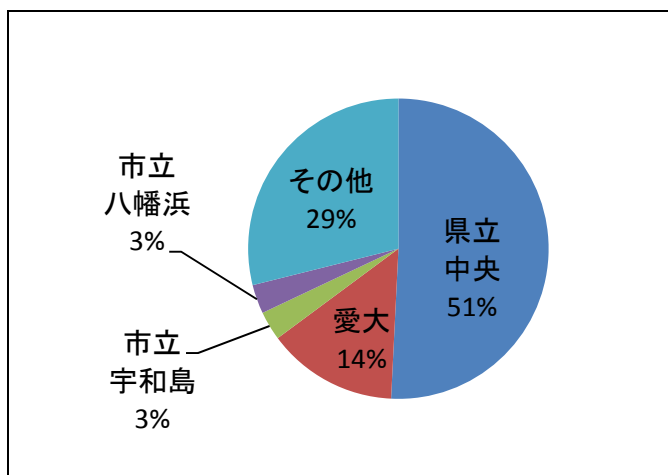
4-②



カ) 搬送先病院 → 図5

全出動の約半数が中央病院に搬送され、広島県、高知県など県外の病院にも搬送しています。

図5



愛媛県ドクターヘリは騒音やダウンウォッシュ（離着陸時に発生する吹きおろし風）などの悪影響もありますが、2月からの運航開始以来「ドクヘリがあったから救命できた」「ドクヘリがあったから、手遅れにならなかった」等の症例も増加しており、ご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

ボランティア部会の紹介

愛媛県立中央病院ボランティア部会は、病院内のボランティア活動を円滑に遂行することを目的として活動しています。その中で、ボランティア活動員の受入れも行っており、現在12名のボランティアさんが正面玄関から外来1階・2階で案内などの外来ボランティアをされています。小児病棟でも複数のグループが折り紙や読み聞かせなどの活動を行っています。ボランティアの皆さん、いつもありがとうございます。

また、年数回病院スタッフを交えたミーティングで意見交換も行っています。

病院ボランティアに興味のある方は是非参加をお待ちしています。お申し込み・お問い合わせは事務局へお気軽にどうぞ。



外来ボランティアの皆さん

ボランティア部会では、平成16年からクリスマスコンサートの企画運営を行っています。

今年は、12月16日(土)に開催予定です。

コンサート会場の飾り付けや会場設営、患者さんの移動には安全に配慮し病院スタッフの協力を得て行っています。また、出演者もボランティアです。患者さんからは、まだ帰りたくない、気分転換になった、楽しい時間がおくれた等の声をもらっています。

13時30分から開演の予定ですので、ご興味のある方はお気軽にお立ち寄りください。

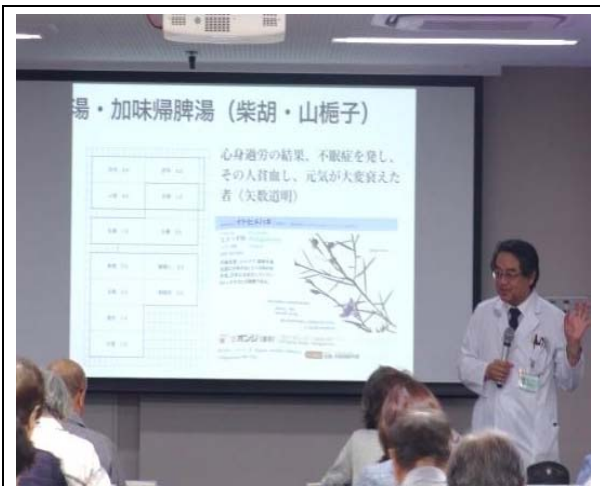
活動内容

*外来ボランティア

- ・自動再来受付機の案内・補助
- ・総合受付、受診相談、ブロック受付への案内
- ・入院サポートへの案内
- ・正面玄関での車イスの準備
- ・駐車場等に置かれた車イスの片づけ
- ・車イス、ベビーカー等の清掃(随時)
- ・図書コーナーの整理

*小児病棟ボランティア

- ・折り紙
- ・バルーンアート
- ・読み聞かせ
- ・紙芝居
- ・リクレーション



「東洋医学公開講座」

鍼灸治療室

漢方内科鍼灸治療室は、昭和54年に併設された東洋医学研究所が平成25年の新病院移転に伴い漢方内科および鍼灸治療室の2つの部門として新たに発足致しました。

当施設では、1)公的機関および専門的機関としての情報提供、2)西洋医学と東洋医学の双方の利点をいかした情報提供など、漢方内科・鍼灸治療室・中央病院の特性をいかした医療環境を県民の方々に提供し、県民の医療・福祉・健康に寄与できるように、定期的に市民公開講座を開催しています。

年に約5回開催される当講座は今年で6年目となりますが、これまでに開催された講座では多くの方が悩んでいるであろう疾患を絞って、病気についての正しい知識を西洋医学と東洋医学の観点から一般の方々にも分かり易く説明することを心がけています。

昨年の講座の内容は、「冷え症・食欲不振・リウマチ・花粉症・こころの病」の疾患について開催され、各回とも20人～50人前後の方々に参加して頂きました。

当施設の漢方の専門医師による講義もあり、参加者の皆さんは熱心にメモを取ったり質問をされる姿も見られ、市民の方々の病気に対する関心の高さが伺えます。このことは、我が国が世界の中でも長寿大国であり、また昨今の健康ブームにも拍車がかかり、一般の方々も健康や病気に対する専門的な知識を得たいと思っていることの現れではないでしょうか。

世界保健機関（WHO）は2000年にセルフメディケーションを提唱しました。これは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されています。当施設ではこのセルフメディケーションを実行しています。自宅でできる、自分や家族にしてもらえるお灸が適していると考えていますので、治療に來られる患者さんには可能な限り自宅でもお灸をして頂いています。公開講座においても当施設の鍼灸師よりツボの紹介がありますので参考にして頂くことが出来ると思います。

今年も全5回（うち2回終了済）の市民公開講座を予定しておりますので、ご興味のおありの方がいらっしゃいましたら、皆様お誘い合わせのうえ是非ご来院ください。詳細は院内にてポスター掲示やパンフレットの設置を行っておりますのでご覧頂けると幸いです。皆様にお会い出来ますことをスタッフ一同心より楽しみにしております！



清方内科 鍼灸治療室		市民公開講座 年間予定		
	開催日	内容	担当	
第24回	平成29年 6月29日(木)	不眠	山崎・山岡	
第25回	平成29年 8月31日(木)	憂鬱	播磨・清水	
第26回	平成29年10月30日(月)	肩こり・子供の疳虫	山見	
第27回	平成29年12月25日(月)	尿トラブル	嵩原・角藤	
第28回	平成30年 3月 1日(木)	めまい	大塚・角藤	

(内容・担当・日時が変更になる場合がございます。)

時間：14:00～15:00 (当日受付 13:30より)

場所：管理棟 1階 講堂 (鍼灸治療室の右隣奥)

受講申し込み：鍼灸治療室 受付
TEL.089-947-1111(代表)

医療安全管理部だより

No. 3 2



朝晩すっかり秋模様です。皆さん、ご自身の体調管理できていますか？

今日は少し、チーム医療についてお話しします。

昔は、病院に行く「医師にお任せします診療」が当たり前のようになっていましたが、最近は患者参加型医療が推奨されています。患者参加型というのは、患者さんもご自身の病気について正しい知識のもと医師や看護師、他の病院職員と連携して病気に立ち向かっていくということです。つまり、チーム医療とは、病気は医師ひとりが治すものではなく患者さんも一緒になって、医師の指示、薬剤師の助言をもとに薬の用法・用量を守り、正しく服用することや、体の変調に関して早めに医師や看護師に相談するなど、患者さんが中心となって周囲の医療関係者とともに、医療をおこなっていくということです。

そのためには、ご自身の身体に目を向けて、体調がおかしいと思ったら早目に病院受診を心がけるとか、療養中の方であれば定期的な受診を怠らない、正しい内服管理を行い自己判断で調節しないなど、ご自分にできることを行っていきましょう。ご自身の身体のことをわかっているのは自分自身なので、自分を大切にしてください。

そして、医療関係者と良好な情報交換、会話をすることで愛顔^{えがお}の関係を繋いでいきましょう。会話、そして対話こそが信頼関係を結んでいく唯一の方法です。私たちも患者さんとの対話を大切に安心、安全な医療を心がけていきますので、よろしくお願いします。



医師の異動 (29. 6. 2～29. 9. 1)

	診療科	氏名
転入	整形外科	大野 尚徳

	診療科	氏名
転出	放射線科	能田 紗代
	眼科	池川 和加子

病病連携・病診連携

連携医療機関のご紹介～第7回～

※当院は、平成22年10月29日に『地域医療支援病院』の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって互いに連携を図っている医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

X医療法人財団 仁清会 野本記念病院



- 所在地：松山市三番町5丁目12番地1
- TEL：代表 089-943-0151
連携室 089-915-6662
- FAX：代表 089-933-1393
連携室 089-915-6663
- 診療科目：内科、循環器内科、整形外科、外科
- 病床数：99床 [急性期病床63床
地域包括ケア病床36床]
- 外来診療時間 平日：午前9：00～12：00
午後13：30～17：00
(休診日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始)

○病院の基本理念

私たち野本記念病院は、地域に開かれた病院として、医療・介護を通じて地域の皆さまの健康福祉の向上に努めます。

○基本方針

- (1) 患者さまの立場を尊重し、説明と同意に基づく医療を行います。
- (2) 地域住民の健康を守るため、救急医療体制の充実に努めます。
- (3) 常に医療水準の向上に努め、より質の高い医療、看護の提供を目指します。
- (4) 健全経営と適正な経営基盤の確立を目指します。

XI医療法人仁友会 南松山病院



- 所在地：松山市朝生田町一丁目3番10号
- Tel：089-941-8255
- Fax：089-945-2999
- 診療科目：内科、外科、整形外科、眼科、泌尿器科、
脳神経外科、形成外科、人工透析、
放射線科、麻酔科（ペインクリニック）、
リハビリテーション科
- 病床数：242床 [一般病床162床、医療療養病床40床、
回復期病床40床]
- 外来受付時間 午前：8時～11時30分
午後：1時～4時30分
(休診日：水曜・木曜・祝日・年末年始)

- 病院の基本理念：1、患者様を中心とした安心で温もりのある医療を実践します。
2、高度で良質な医療を行って、地域社会に貢献します。

- 基本方針：1、全人的医療を目指す。患者様の知る権利、自己決定権およびプライバシーを尊重した医療を行う。
2、常に新しい技術と医学的知識の吸収に努める。
3、高い倫理観に基づいて医療活動を行う。
4、安全で快適な医療環境整備を目指す。
5、病診連携、病病連携構築に努めて、地域医療に貢献する。